

C 福島復興応援ツアー 昭和60年3月法学部卒業 折戸 淳

「現地を訪問して想うこと」

かねてから東日本大震災の被災地の状況に興味があり一度現地の方のお話を聞きたいと思っていたが、たまたま、校友会誌で当ツアーの募集記事を見つけ、また、職場の同僚で仙台市役所への業務支援に長期間行っていた方から誘われたことから重い腰をあげる次第となりました。

一番印象に残ったのは福島県スパリゾートハワイアンズホテルの支配人のお話です。

もともと、映画「フラガール」で炭鉱町の過疎対策のためにホテルが建てられたという経過を知っており、また、新聞報道等でフラガールが全国巡業しながら再建を心待ちにしていたということなので他人事ながら心配していました。

支配人の、震災当日の利用客への精一杯の対応、1箇月後の余震に伴うホテル建物の被害で廃業も考えられるぎりぎりの状況を何とか切り抜けたこと、採算を度外視した被災者支援など、民間企業の経営者として企業の存廃に関わる苦悩に満ちた生の経験をじかに聞かせていただき、行政関係者からの話では得られない切迫感を感じました。各種の営業活動でようやく客足も震災前と同水準に戻り、まずは幸先のよいスタートのようですが、経営再建はこれからというところです。

ホテル自体もリーズナブルなお値段で家族で一泊して十分楽しめることがわかり、関東から無料バスも出ていることから、いつか再訪したいと思いました。

(おまけ)校友活動に参加したことがなく、今回のツアーも同僚以外に知り合いはいないはずでしたが、高校の時の英語のN先生や、大学のサークルの伝説のO先輩など、思いもかけない方と行動を共にすることができました。人の縁を感じさせるツアーでした。